

公益財団法人徳川記念財団 2025年度輪王寺宝物殿 常設展

当財団は令和4年度より、資料調査のため作品展示を休止しておりましたが、本年度から日光山輪王寺宝物殿および久能山東照宮博物館での常設展示を再開いたしました。3年ぶりの展覧会です。ぜひ、お越しください。



狩野養信筆「徳川家光像」

徳川家光 3月27日(金)～5月20日(水)

家光は3代将軍であり、徳川家康の孫として江戸幕府の礎をさらに強固に築き上げました。日光の社寺として世界遺産に登録される東照宮・輪王寺・二荒山神社の堂社のほとんどは、家光の時代に建てられました。

本展では、家光とゆかりの深い日光で、家光の書画を展示し、その知られざる人柄をご紹介します。



狩野探幽筆「東照大権現像」(霊夢)

徳川家康 5月22日(木)～2025年7月22日(火)

家康は慶長8年(1603)、征夷大將軍に任じられ、江戸幕府を開きます。家康は、260余年にもわたる泰平の世の基礎を築きました。没後は日光東照宮をはじめとして全国に神として祀られ、江戸時代以降、人々から尊崇されています。

本展では、徳川宗家に伝わる家康の書画などから、その人となりをうかがうとともに、「東照宮大権現像」(霊夢)を展示し、神格化された家康像についても紐解いていきます。

輪王寺宝物殿では、「東照大権現－神として祀られた将軍－」展を開催。宝物殿所蔵と当財団所蔵の「東照大権現像」(霊夢)が同時に鑑賞できる貴重な機会となります。さまざまに描かれた家康像をご覧ください。

徳川綱吉と元禄時代 7月24日(木)～9月23日(火)

5代将軍綱吉が統治した元禄時代は、商業の発展を背景に豪華絢爛な文化が花開きました。綱吉は、儒学を重んじて学問を奨励し、湯島に聖堂を建てて幕臣や諸藩士などの学問修養の場としています。

本展では、綱吉の書画を通してその人となりを感じていただくとともに、同時代に描かれた絵画を展示し、元禄時代の多様な魅力をご紹介します。



徳川綱吉筆「富士山」

御用絵師の仕事 9月25日(木)～11月25日(火)

御用絵師とは、江戸時代に幕府や藩に抱えられた絵師をさし、狩野派がその地位を独占していました。御用絵師の仕事は将軍や藩主の肖像画、城郭殿舎の内部装飾、御前での席画、絵画の鑑定など多岐にわたります。

本展では、徳川宗家に伝来する狩野派の絵画や狩野派の極書、狩野派の手本を参考に描いた宗家の人々の絵画を展示し、御用絵師の仕事をご紹介します。



蒔絵衝立(春・夏)(黒塗牡丹唐草葵浮線菊紋散蒔絵)

徳川将軍家と古典 11月27日(木)～1月27日(火)

『源氏物語』、『伊勢物語』、『古今和歌集』等、古典文学は公家や武家の子女にとって教養を身につけるための重要な教材でもありました。江戸時代には、古典文学のモチーフを散りばめた嫁入り道具や調度が盛んに作られています。

本展では、徳川宗家17代家正の妻・正子(なおこ)所用と伝わる「伊勢物語図屏風」など、古典文学を題材とした作品をご紹介します。



狩野伯寿筆「源氏物語絵巻」

天璋院篤姫

2026年1月29日(木)～3月24日(火)

激動の幕末、薩摩藩島津家の分家に生まれながらも、13代将軍徳川家定に正室として嫁いだ篤姫。夫の急死後、若き14代将軍家茂の養母として、その妻和宮とともに江戸城大奥をとりまとめ、戊辰戦争時には、江戸城に迫る西郷隆盛ら新政府軍に働きかけ、江戸城の無血開城に大きな役割を果たしました。

本展では、徳川宗家に伝わった篤姫ゆかりの品々を通して、篤姫の生涯をたどります。



江戸城吹上御庭の図「元馬場」